

朝日

使用済み核燃料 保管方法見直し

原発相、建屋外促す

細野豪志原発相は14日、
東京都内で朝日新聞のイン

タビューに応じ、原子力発
電所の使用済み核燃料の保

管方法を見直す考えを明らかにした。現在は主に原子炉建屋内の貯蔵プールで保管しているが、建屋外の保管場所設置などを電力事業者に促す方向だ。

使用済み核燃料について「保管方法はいろいろ考える必要がある」と指摘。一部原発で例外的に設けられている別棟の共用の貯蔵プ

ールや、「乾式キャスク」と呼ばれる専用容器での保管例を挙げ、「積極的に採用されてこなかった。改善の余地がある」と訴えた。

使用済み核燃料は最終的に日本原燃の再処理工場（青森県六ヶ所村）に運んで処理するのが現在の計画だが、完成が18回も延期され、各原発の貯蔵プールは

飽和状態に近づきつつある。各電力会社はこれまで一時的に貯蔵能力を増やす応急措置で対応してきた。

細野氏が保管方法の改善に言及したのは、こうした対症療法的な対応を変える狙いがある。改善を進めることで、原発再稼働に向けて原発立地自治体の同意に期待する面もあるようだ。